

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市榴岡児童館		
2 指定管理者	特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場		
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 49,589人(前年度比 109.1%) 令和4年度 45,442人 令和3年度 37,802人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 85,946千円 (75,068千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館地域連絡会、児童クラブ保護者懇談会を実施。		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。 なお、児童館管理業務仕様書において月に1回以上実施しなければならないと定めている避難訓練等を実施していない月があった。	29/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、保護者会をはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場）による自己評価》
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの参画が学校・地域・保護者の理解と協力により大変深化した一年となった。小学4年生以上を対象にやりたいことを形に出来る「子どもスタッフ会」20名が年間を通して活動した。児童館まつりへのブースと子どもまつりの企画を子ども主体で成し遂げた。榴岡小PTA主催「榴魂祭」より出店依頼もあり参画した。児童クラブでの子ども集会では一年生も自分の意見を表明できるようになった。ドッジボール大会が子どもから提案され各登録場所対抗戦と応援合戦に発展した。やろうとする思いが共感を呼び大人の理解まで拡大したといえる。 ・子育て支援を広げるために乳幼児から小・中学生期までの親が集える場づくりに努めた。9回連続の子育て講座や父親が集う場として「TOTTO・THA・CLUB」を立ち上げた。 ・榴岡小PTA・学校支援本部・榴岡小校長・児童館による毎月定例会は情報共有を格段に高めた。令和5年度の地域公開セミナーは4者のネットワークにより日本を代表するアスリートや専門家による講座を3回行うことが出来た。榴岡小体育館が会場となり乳幼児から大人まで参加し意義深いものとなった。 ・児童館まつりを実施できた。未だ縮小気味だが300名を超える参加となった。地域諸団体や子ども同士そして家族で談笑する様子が復活し地域内世代間交流の場となった。 ・子ども視点で榴岡地域内を歩き「つつじがおかお宝マップ」を作成した。 ・年央に児童クラブ登録場所の引っ越しを2回行ったが、保護者の理解の基に滞りなく完了でき、児童の動揺も殆どなかったのは幸いだった。 ・児童クラブ児童を対象に郊外WSと表現WSを東北の造形作家を支援する会と共にに行った。児童と保護者のアンケートより好評との評価を頂いた。 ・子育て支援クラブガーネットの活動が充実し、4年ぶりのクリスマス会を企画した。母親の参画力も旺盛だった。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、乳幼児から小学生が親子で参加できる「ミニ四駆を走らせよう」「プラレール大会」が年間通して行われており、異年齢による遊びを通して子どもの育ちを支援するとともに、子ども達が地域の方と直接交流できる機会を設ける等、地域で健全育成を進める環境作りに努めている。また「留学生とあそぼう」や「ドローンを飛ばそう」等の各学年毎のイベントは前年度アンケートや子どもの意見を基に企画している。地域の人材や資源を活用した年齢発達に応じた内容を提供し、子ども達は遊びや友達、地域の方との関わりを通じて自主性や社会性、創造性を育んでいる。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、季節の行事や工作、読み聞かせ等、職員による年齢別の定例行事の他、「つつじがおかサロン」は、民生委員や栄養士や助産師等による講話や救命講習、パネルシアターショー等、多彩な内容を提供し、地域の子育て環境に考慮して関係機関の協力を得ながら包括的な相談窓口としての役割を果たしている。</p> <p>地域交流推進事業においては、様々な関係団体や関係機関等の協力体制を軸にハロウィンパレードや年4回の地域公開セミナーの実施をはじめ、地域の方と子ども達による「つつじがおかお宝マップ」作り等、地域に根付いた活動への積極的な関わりを継続しており、地域交流の拠点としての役割を十分に果たしている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、大規模放課後児童クラブの運営において、スペースの有効活用と縦割りの工夫で安全面に配慮しながら、子ども達が安心して過ごせる生活の場としての環境を整えている。また制作活動が盛んで職員の特技を活かしたペーパークラフト「ペバビロボット」や難易度の高い折り紙の恐竜等は、連携先である放課後児童デイサービスの作品展への出展を通して交流が図られている。その他「SOAT」との協働によるワークショップは参加者を募って年13回実施され、自然体験やアート活動等、異年齢が関わりながら活動する機会となっている。</p>	A

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課